

植 調 協 会 だ よ り

◎植調研究所報告

平成14年度水稻用除草剤沖縄基礎試験の実施状況

1. 目 的

本年試験が計画されている一部の水稻用新規除草剤について、適用性試験の実施に先立ち、除草効果および葉害、さらには製剤間の比較検討を行うことによって、薬剤の特性を把握し、第二次適用性試験が効率的に進められるための知見を得ることを目的とする。

2. 耕種概要

(1) 試験場所：沖縄県名護市為又

(2) 試験期間：平成15年2月～3月

(3) 栽培法：稚苗移植栽培

(4) 試験規模

① ジャンボ剤：1区14㎡（2×7m）2区制

② 粒剤、フロアブル剤等：1区0.8㎡（0.8×1m）2区制

(5) 土壌条件

土性	腐植含量	pH(H ₂ O)	塩基置換容量	減水深
壤土	1.66%	6.5	6.8meq/100g	0.5cm以下/日

(6) 水稻関係

1) 植 代：2月5日

2) 移 植：2月7日

① ジャンボ剤：1株3～4本手植え

② 粒剤、フロアブル剤：1株3本、1区15株手植え

3) 品 種：ひとめぼれ

移植苗：葉齢2.0 L（草丈10.5cm、地上部乾物率20.3%）

(7) 雑草播種：2月7日

試験圃場での自然発生はホタルイが主であるが、その他ノビエ、ホタルイ種子を土壌表面に播種し、タマガヤツリ、コナギ、一年生広葉雑草種子およびマツバの混入土を播き込み、ミズガヤツリ、ウリカワの塊茎を区当たり各5個植え付けた。

(8) 薬剤処理

粒剤、粒状剤：均一に手まき

フロアブル剤：ピペットを用いて全面に滴下

ジャンボ剤：試験区短辺部脇に小区画用の薬剤を投入

(9) 水管理 移植後より3～4 cm湛水で管理および薬剤処理（ジャンボ剤は5cm程度）を行った。

(10) 施肥 N-P-K 3.0-3.0-3.0kg/10a

(11) 薬剤処理時の雑草および水稻の生育状態

処理時期	月日	ノビ	タマザツリ	コナギ	他広葉	マツバ	ホタルイ	ミズザツリ	ウリカ	藻類*	水稻
+0	2/7	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	0 %	2.0L
+3	10	発生始	〃	〃	〃	〃	〃	〃	発生始	〃	2.0L
+5	12	～0.3L	〃	〃	〃	発生始	発生始	発生始	線形葉	〃	2.2L
/ビ1.0L(+9)	16	～1.0L	〃	〃	発生始	〃	～0.5L	〃	～0.5L	〃	2.6L
/ビ1.5L(+12)	19	～1.5L	発生始	発生始	〃	〃	～1.0L	～1.0L	～1.3L	〃	3.3L
/ビ2.0L(+15)	22	～2.0L	〃	〃	〃	増殖期	～1.5L	～1.5L	～2.0L	5 %	3.7L
/ビ2.5L(+19)	26	～2.5L	～1.0L	～1.0L	～1対	〃	～2.3L	～2.0L	～2.5L	10%	4.2L
/ビ3.0L(+22)	1	～3.0L	〃	～1.5L	〃	〃	～2.8L	～2.5L	～3.0L	15%	4.7L

*藻類は主にアオノドで表示は被度

3. 試験経過および気象概況

水稻移植後の気温は平年に比べやや高く推移し、日照も多い状態で経過した。試験期間中は平年に比べ降雨量は少なく、オーバーフロー等は無かった。

雑草の発生および生育については昨年より早く、順調な生育がみられた。

試験の観察は3月中旬頃が適期である。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新成印刷(有)

平成15年3月発行

定価420円(送料270円)

植調第36巻第12号

(本体400円,消費税20円)